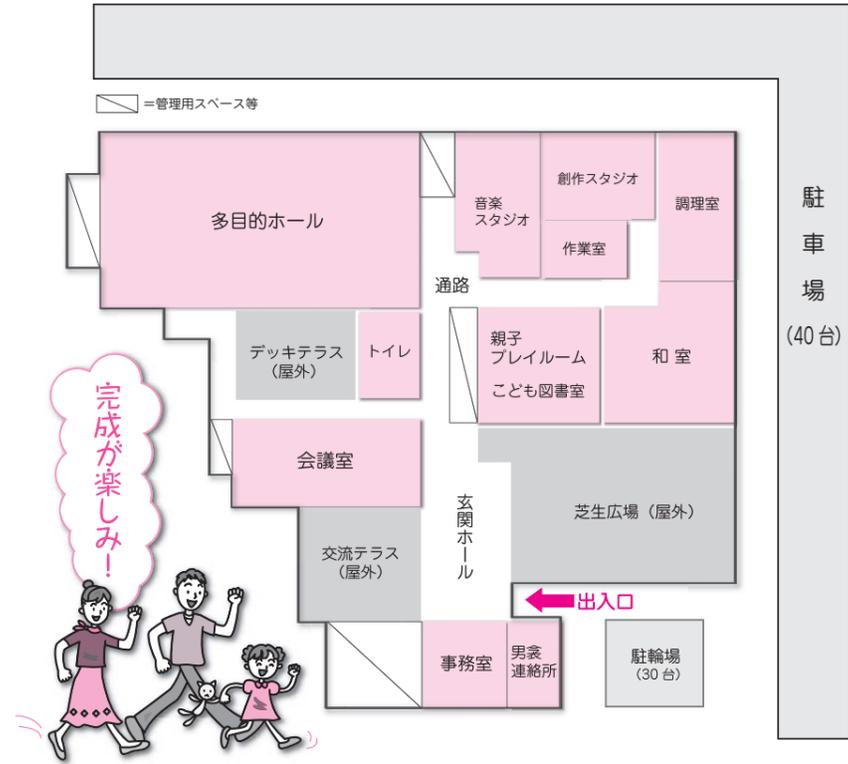


男衾地区生涯学習施設、 工事請負業者決まる

赤浜に建設予定の男衾地区生涯学習施設建築及び機械設備工事にかかる工事請負契約の締結について報告があり、付託された産業建設常任委員会並びに本会議における審議の結果、**全員賛成で可決**しました。

男衾生涯学習施設 部屋配置略図



【建築工事】
請負業者：古郡建設株式会社
請負金額：1億7608万5000円

【機械設備工事】
請負業者：株式会社ソーセツ
請負金額：4095万円

※工期はともな平成22年3月10日まで

委員会での主な質疑

問 トイレの数が少ない。また太陽光発電システムの整備計画、調理器具のIH化の検討については。

答 トイレは、衛生関係の学会の計算式に基づいた標準の数を採用しました。太陽光発電システムについては、屋根に置く形になります。内容を検討してメーカーを選びます。調理器具はガス式で検討しています。

賛成です 安心安全な工事である この確認を希望

田母神節子議員

当施設の建築工事は予定価格の94%で落札、機械設備工事は63%で落札されています。大丈夫なのか心配です。公共工事は税金で賄われます。その税金が、そこで働く労働者の生活が守られるような賃金は支払われなければなりません。建設労働者の退職共済金の証紙が毎日貼られているのか等々。

行政は指導を強めると同時に、安心安全な機械設備工事であることの確認をすることを希望します。

賛成です 施設利用は民意を生かす

田母神節子議員

熊谷保健所寄居分室は廃止すべきでないと考えていますが、県は国の行財政改革を受けて廃止を決めました。障害者団体の方々が苦勞して交流センターとしてようやく軌道に乗ってきたところですが、保健所がなくなっても、この施設を今までもどおり使わせてほしいという願い、また、地域の公民館として住民に開かれることは当然です。7000名近い民意は生かすべきです。

賛成です 町民のため、有効活用

佐藤理美議員

請願の趣旨である「市街地公民館や障害者交流センターとしての利用」は、地域住民からの必要に迫られた切実な要望でもあり、まだ十分に使用可能な建物を壊すのは、あまりにももったいないことです。町民のために有効活用すべきです。

委員会レポート 1年間にわたる調査・研究を終結

各委員会では、この1年間それぞれテーマを掲げて調査研究を行ってききましたが、その総括が本会議にて委員長により報告されました。

総務常任委員会

調査研究テーマ

「安心・安全なまちづくりについて」

子どもの安心・安全確保のシステムづくりを

当委員会では、1年間、安心・安全なまちづくりに関して調査研究を行った結果を踏まえ、執行に対して次の要望を行った上で、本件に関する調査研究を終結することとしました。

要望1：防犯灯電気代負担

通学路に必要な防犯灯の電気料金（現在、町の負担は3分の1）を、全額町が負担する方向で検討してほしい。

要望2：青色防犯灯設置

防犯に効果があると言われていた青色防犯灯について、まず町の公共施設（駐輪場等）への設置を検討してほしい。

要望3：防犯組織のシステムづくり

各地域ごとに設置されている「子ども見守り隊」や、防犯のための組織が情報交換できるようなシステムづくりを検討してほしい。

文教厚生常任委員会 調査研究テーマ 企業との文化交流について 企業との文化交流の推進

企業との文化交流について、調査研究のまとめとして、次のような項目を執行に要望し、本件に関する調査研究を終結することとしました。

- ・企業と町民間で文化交流に対する情報不足を解消する。
- ・文化交流の意識がある企業に対して、情報提供を推進する。
- ・さまざまなイベントに参加しやすい機会をつくる。
- ・産業文化祭等への参加団体を増やしていく。
- ・企業の文化交流を活性化するための環境づくりを推進する。



交流の機会に（産業文化祭）



6/11 総務常任委員会では、熊谷保健所寄居分室を視察しました

約7000名の声、届く 廃止される保健所は町民が活用できる施設へ

請願：平成21年度で廃止になる、熊谷保健所寄居分室の施設を、(1)市街地公民館、(2)障害者交流センター、として利用することについて

この請願は、平成21年度末で廃止になる熊谷保健所寄居分室を、「市街地公民館」「障害者交流センター」として、町民のために有効利用してもらいたいというもので、請願者ほか6954名の署名とともに議会で提出されたものです。

付託された総務常任委員会では、施設を視察するとともに請願者代表から施設の概要や利用状況を伺いました。その後の審査並びに本会議の審議の結果、**全員賛成で採択**しました。